

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	関西大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カンサイダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ(ビジネス)等 ※国際インターンシップ
	学部・研究科等名	全学部・研究科
	担当教職員名・役職	笹倉淳史 教授・キャリアセンター所長
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	2
	受入企業等数	1
	受入企業等名	Panasonic India Pvt. Ltd.
	インターンシップの分類	3.海外インターンシップ,5.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
要素②	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	グローバル戦略を強化している日系企業への理解を深化させるため、Panasonic India Pvt. Ltd.において、インド国内でのマーケット調査、関連会社訪問、営業同行等を経て、現地のビジネスモデルや経済状況並びに文化・環境への学びを促している。また、最終日にはインターンシップの活動報告について、役員等の前でプレゼンテーションを行う。
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している,2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	学部1~3年次、M1
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
要素③	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	世界を舞台に雄飛するグローバル人材の養成を企図し、夏季休業期間中において24日間のインターンシップを行っている。学生の職業観や勤労観を涵養することを目的とし、海外で働くことへの意欲喚起を行うプログラムとして、学則により正規の教育課程として単位を認定している。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全7回の事前講座の中でインターンシップの目的・意義やビジネスマナーを再確認するだけでなく、様々な分野でグローバルに活躍しているビジネスパーソンから、グローバル人材として必要な資質や能力を学んでいる。また、インドの現地法人の方にもご協力いただき、インドの政治・経済概要や実習先企業の事業展開状況に関する講座を実施している。加えて、学生はパナソニック株式会社の沿革や創業者に関する書籍を読み、理解を深めている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習の振り返りを個人で行うだけでなく、異なる実習先(日本国内や他国での実習)の学生とのグループワークや企業担当者を招いた実習報告会を通して、インターンシップでの気づきや意識・価値観の変化についてアウトプットを行っている。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	教職員がインドの実習先企業へ訪問し、学生の実習に対する取り組み姿勢を確認したうえで学生と面談を行っている。また、実習最終日に実習先で開催されるインターンシップ実習報告会に教職員も参加することで、学生の成長を確認している。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	

④	4-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	アンケートやレポートの作成だけでなく、事前・事後講座内でのワークシートの記入や、実習中の業務日誌・実習報告書を通して、学生の意識や行動の変容について検証している。また、実習先の担当者にアドバイズシートを作成いただき、実習全体を通してのフィードバックを学生に実施している。
要素⑤	5-1. 一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2. 該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間24日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	Panasonic India Pvt. Ltd.において、計24日間(休日・移動日含む)の実習を行っている。
要素⑥	6-1. 大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2. 該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	平成27年にパナソニック株式会社とインターンシップに関する協定書を締結し、以後毎年インターンシップを実施している。また、実習内容に関しては、Panasonic India Pvt. Ltd.の担当者、本学教職員、学生との打合せを通して、学生の要望を踏まえながら教育的効果の最大化に努め、実習配属先や実習スケジュール、その他詳細内容を決定している。
	7. 上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	関西大学
	担当部署名	キャリアセンター事務グループ
	担当者役職名	
	担当者氏名	奥田 淳子・有本 咲季
	電話番号	06-6368-0346
	メールアドレス	internship@ml.kandai.jp